

むし歯や歯周病で失った組織を再生する治療法の開発が急ピッチで進んでいる。幹細胞を活用した臨床研究が繰り返され、安全性や有効性が示されつつある。実用化すれば歯科治療の在り方を変える画期的な治療法になる。再生医療の研究はどのような局面を迎えているのか。実用化への展望は——。最前線で活躍する2人の研究者に取材するとともに、再生医療の臨床現場に迫った。

1/1
大阪府歯科保険医協会
発行人 志岐 敬
大阪市浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-net.org/
2019年第1319号 ●定価・年間10,000円 月1,000円
(毎月5、15、25日発行) ●1977年5月23日第三種郵便物認可

実用化へ急ピッチで進む研究開発

再生医療と 歯科の未来

歯髄再生の革新的技術
幹細胞研究の新たな幕開け

歯周病治療で抜歯は不要に
再生医療はここまで来た

歯周組織再生剤「リグロス」
保険適用から2年
臨床の最前線は今

年末年始のお知らせ

協会の年末年始の業務と本紙の発行は次の通りです。

【休務】12/29～1/6

【新聞】12/25付と1/5付を合併し、1/1新年号として発行。1/15付は休刊。

大阪府知事と市長は万博誘致の成功で府民の貧困化から目を逸らし、自分の立場と地位の安泰を喜んでいる。陳腐だが年の始めくらいは弱者への思いやりの博愛主義を今年の主題に据えたらどうだろう。(S)

トランプ米大統領は各国首脳と対話の用意があると言いつつ、会見場所にまだ言及していないが、そんな事柄は各国の外務省の小役人の仕事で、かえって首脳会談でこれまでの火種に対しての従来の立場や方針を変えない、妥協はしないと宣言しているようなものである。

大阪は自国の利益優先を標榜したままだ。

新年の朝は車の騒音も少なく穏やかそうだった。年明けには戦火もない。だが、ここ数年日本はおろか国連にも手に負えない全地球的な課題がほとんど未解決で、むしろ悪化・慢性化の流れのまま推移している。小国は近所どうしで恫喝しあい、

歯界

新年の朝は車の騒音も少なく穏やかそうだった。年明けには戦火もない。